

直方ミニバスケットボールクラブだより

子どもは確実に成長しています



子どもは、いろいろな人やできごとに出会うことで成長します。
子どもは、良いことも思うようにならないことも経験しながら成長します。
子どもは、チャレンジし、失敗と成功を繰り返しながら成長します。
子どもは、ふりかえりと反省から進むべき次の一步を踏み出します。

このところ、ケガ、事故、心身の変調等で、思うように活動できない子どもたちが複数出ていました。

子どもはクラブだけでなく、学校や家庭・地域で日々生活しています。子どもの生活のなかでは、クラブでの活動はほんの一部にすぎません。子どもの生活行動は、個々の子どものもつ特性や個性、友だちとの人間関係と結びついて、いろいろな場面いろいろなかたちであらわれます。今は、それに加えて、「コロナ対策」により長引く自粛ムードのなかでの生活、夏から秋、冬への季節の変わり目等も、少なからず子どもの心身にさまざまな影響を及ぼしています。

ケガ、事故、心身の変調等の回復、復調には時間がかかり、そのために苦痛や忍耐を伴うことも少なくありません。しかし、そのことによりそい、支え、根気強くともに歩んでくれる人がいれば大丈夫です。見守り、励まし、応援してくれるおうちの人がいれば、失敗があっても、すぐに解決できなくても、子どもはつぶれません。客観的な立場で、公平・公正、適正・冷静に事の成り行きを見極め、子どもに向き合ってくれる人がいれば、子どもはいずれまた立ち上がれます。

子どもは、子どもなりの忍耐力をもっています。子どもどうしは、子どもたちなりのわかり合う力をもっています。ただし、おとながイメージするものとはちょっと質を異にするものであったり、おとなの理屈とはちょっと違うものであったりします。なので、おとなの考えを押しつけるだけでは、うまく回復基調にのらないことがよくあります。子ども時代の、子どもの世界の、子どもの関係性を理解しようとしなければうまくいかないことが多いです。

小学生の場合、おとなの役割は必要です。見守り、励まし、応援してくれるおうちの人。うまく介在し、手当てしたり、つなぎ直したり、アドバイスした

り、待ってあげたりする学校の先生やクラブの指導者。いずれにおいても、重要なことは、おとなが子どもにかわって問題を解決してあげることではありません。それは、子どもにとって解決にはならないからです。子どもにとっての解決は、その子なりのものをみつけてあげなければなりません。子どもは一人ひとり違うので、その子に合った解決方法をいっしょに探してあげることが重要です。同じ方法がすべての子に通用するわけでもありません。

子どもが成長するなかで、当然起きるであろうさまざまなきごとに対して問われているのは、私たちおとなの在り方です。子育て・子どもの教育を通して、私たちおとなも、親として指導者として育てられているのだと思います。

私たちおとなも、いろいろなことを経験してきましたね。裕太コーチは、高校時代に経験したつまずきと立ち上がりのことを子どもたちに語り伝えてくれました。そのときは、チームメイトの存在が支えだったと話していました。今また新たな道に進む闘いを始めています。成海元コーチも、上川コーチも、私自身も、誰もが順風満帆に今の生活を送っているわけではありません。いろんなことでつまずき、迷い、悩み、そこからまた立ち上がり、チャレンジし...、これを繰り返しています。現在進行形のこともあるでしょう。

しかし、なんとかつづれずに、立ち上がり、少しずつでも歩を進めることができているのは、安心して心休めることのできるホームがあり、何かあれば相談できる人をもっていて、日々新たな刺激をうける場所（機会）があるからです。それがあからこそ、自分の中に日々新たなエネルギーを生み出すことができている。

「成長する」ということは、チャレンジしながら、成功体験や失敗体験を重ねながら、自分に力をつけていくことです。たとえ「困難」にぶつかっても、それを一つ一つ子ども自身がクリアしていくことが重要です。その「困難」を人に取り除いてもらうことではなく、自分で越えたり、避けたり、やり過ぎたりすることでなければ、成長（子ども自身が力をつけること）にはつながりません。私たちおとなは、家庭、学校、地域、クラブ等、それぞれの立場で、それぞれの役割を果たすことが大切です。



子どもたちは、幾多の「困難」をのり越えながら、確実に成長しています。